

2020年10月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2020年3月3日 東

上場会社名 エイケン工業株式会社 上場取引所
 コード番号 7265 URL <http://www.eiken-kk.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 早馬 義光
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 池田 文明 (TEL) 0537-86-3105
 四半期報告書提出予定日 2020年3月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年10月期第1四半期の業績 (2019年11月1日～2020年1月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年10月期第1四半期	1,457	0.9	93	△17.7	95	△18.8	69	△17.5
2019年10月期第1四半期	1,444	5.8	113	△6.4	118	△7.2	84	△0.4

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年10月期第1四半期	68.39	—
2019年10月期第1四半期	83.31	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年10月期第1四半期	6,665	5,034	75.5
2019年10月期	6,665	5,072	76.1

(参考) 自己資本 2020年10月期第1四半期 5,034百万円 2019年10月期 5,072百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年10月期	—	0.00	—	100.00	100.00
2020年10月期	—	—	—	—	—
2020年10月期(予想)	—	0.00	—	110.00	110.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年10月期の業績予想 (2019年11月1日～2020年10月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,987	2.2	226	△3.5	235	△4.1	169	△7.8	166.60
通期	6,020	1.2	452	△2.1	472	△2.8	339	△8.0	334.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2020年10月期 1 Q	1,240,000株	2019年10月期	1,240,000株
---------------	------------	-----------	------------

② 期末自己株式数

2020年10月期 1 Q	224,779株	2019年10月期	224,779株
---------------	----------	-----------	----------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2020年10月期 1 Q	1,015,221株	2019年10月期 1 Q	1,010,621株
---------------	------------	---------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国の経済は、政府による経済政策及び日本銀行による金融政策の下、好調な企業業績により雇用・所得環境の改善が続き、緩やかながら回復基調がみられました。しかしながら、通商問題を巡る動向、中国経済の先行き、英国のEU離脱問題による影響及び中東地域を巡る情勢等の海外経済の動向、消費税率引上げによる消費者の動向等、景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

こうした状況のなかで、フィルター部門の国内におきましては、自動車用フィルター業界は、自動車メーカーの生産ライン、カーディーラーに供給するフィルターメーカー（以下、純正メーカー）とカーショップ、ガソリンスタンド及び整備工場等に供給するフィルターメーカー（以下、市販メーカー）に大きく2つに分かれます。純正メーカーは、取引先の自動車メーカー、カーディーラー以外にも他の自動車メーカーのフィルターを品揃えして、補修用として市販メーカーの納入先にも販売しております。よって、自動車用フィルター市場は、純正メーカー、市販メーカーが入り混じって激しい競争を繰り広げており、特に価格の面では、新興国で製造された安価な商品が増加し、激しい価格競争にも晒されております。輸出におきましては、当社ブランド「VIC」を約40年間、海外の日本車向けに販売しておりますが、日本のフィルターメーカー、海外のフィルターメーカーと品質、価格等で激しい競争を展開しております。さらに、燃焼機器部門におきましては、プレス加工技術を活かし、1976年から風呂釜用バーナを製造するようになり、現在は、厨房機器メーカー、ボイラメーカー及びコインランドリーメーカー等にガスバーナ、熱交換器等を販売しております。

このような環境のなかであって、当社はフィルター部門において国内では、付加価値の高い大型車用フィルター、既存品と差別化した高性能オイルフィルター及びプレス部品の拡販に注力すると共に、新規取引先の開拓、既存取引先との取引拡大に取り組んでまいりました。輸出では、主要輸出先への営業活動を強化すると共に、新規輸出先の開拓にも取り組みました。さらに、燃焼機器部門では、取引先から依頼を受けたバーナの開発、既存のバーナ部品及び熱交換器の拡販に取り組んでまいりました。

その結果、売上高は前年同四半期に比べ12百万円増加し、14億57百万円（前年同四半期比0.9%増）、売上高は増加したものの、原材料価格が上昇したこと等により売上原価が増加したこと、販売促進費並びに運搬費が増加したこと等により販売費及び一般管理費が増加したことが要因となり、営業利益は前年同四半期に比べ20百万円減少し、93百万円（前年同四半期比17.7%減）、営業利益が減少したことが要因となり、経常利益は前年同四半期に比べ22百万円減少し、95百万円（前年同四半期比18.8%減）、四半期純利益は前年同四半期に比べ14百万円減少し、69百万円（前年同四半期比17.5%減）となりました。

セグメント別の業績を示すと、次の通りであります。

(フィルター部門)

売上高に関しては、国内売上は同業者向け及び商社向けが増加しました。輸出売上はヨーロッパ向けが増加しました。営業利益に関しては、売上高が増加したものの、原材料価格が上昇したこと及び労務費等が増加したことにより売上原価が増加したこと、販売促進費並びに運搬費が増加したこと等により販売費及び一般管理費が増加したことが要因となり減少しました。

その結果、売上高は前年同四半期に比べ26百万円増加し、13億63百万円（前年同四半期比2.0%増）、営業利益は前年同四半期に比べ6百万円減少し、1億62百万円（前年同四半期比3.9%減）となりました。

(燃焼機器部門)

売上高に関しては、コインランドリー用バーナの売上高が減少しました。営業利益に関しては、売上高が減少したこと及び原材料価格が上昇したこと等により売上原価が増加したことが要因となり減少しました。

その結果、売上高は前年同四半期に比べ13百万円減少し、94百万円（前年同四半期比12.7%減）、営業利益は、前年同四半期に比べ6百万円減少し、938千円（前年同四半期比87.0%減）となりました。

(その他)

ティッシュケース及び灰皿等の販売をしております。

その結果、売上高は前年同四半期に比べ48千円減少し、140千円（前年同四半期比25.8%減）、営業損失は417千円（前年同四半期は営業損失279千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

流動資産は、前事業年度末と比べて16百万円減少し、37億67百万円(前事業年度末比0.4%減)となりました。主な要因は、売上高が増加したことにより受取手形及び売掛金が20百万円増加したものの、税金並びに配当金の支払い等により現金及び預金が7百万円、販売数量が増加したことにより商品及び製品が26百万円、それぞれ減少したことによるものです。

固定資産は、前事業年度末と比べて16百万円増加し、28億98百万円(前事業年度末比0.6%増)となりました。主な要因は、減価償却費を計上したこと等により機械及び装置が43百万円減少したものの、前事業年度末と比べて一時差異が増加したことにより繰延税金資産が20百万円、債券の新規購入等により投資有価証券が39百万円、それぞれ増加したことによるものです。

この結果、総資産は、前事業年度末と比べて383千円減少し、66億65百万円(前事業年度末比0.0%減)となりました。

(負債)

流動負債は、前事業年度末と比べて39百万円増加し、13億88百万円(前事業年度末比2.9%増)となりました。主な要因は、税金の支払いを実施したことにより未払法人税等が19百万円減少したものの、当第1四半期累計期間は賞与の支給がなかったことにより賞与引当金が60百万円増加したことによるものです。

固定負債は、前事業年度末と比べて2百万円減少し、2億42百万円(前事業年度末比0.9%減)となりました。主な要因は、退職給付引当金が1百万円減少したことによるものです。

この結果、負債合計は、前事業年度末と比べて37百万円増加し、16億30百万円(前事業年度末比2.3%増)となりました。

(純資産)

純資産合計は、前事業年度末と比べて37百万円減少し、50億34百万円(前事業年度末比0.7%減)となりました。主な要因は、四半期純利益の計上により利益剰余金が69百万円増加したものの、配当金の支払いにより利益剰余金が1億1百万円、時価評価の下落によりその他有価証券評価差額金が5百万円、それぞれ減少したことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年10月期の業績予想に関する事項につきましては、2019年12月6日に公表いたしました数値から変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年10月31日)	当第1四半期会計期間 (2020年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,411,569	1,404,092
受取手形及び売掛金	1,191,494	1,212,064
電子記録債権	352,064	361,167
商品及び製品	541,298	514,587
仕掛品	44,295	53,402
原材料及び貯蔵品	194,754	192,994
その他	49,879	30,550
貸倒引当金	△1,561	△1,580
流動資産合計	3,783,795	3,767,278
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,064,500	1,050,921
機械及び装置（純額）	761,653	717,817
その他（純額）	498,485	511,382
有形固定資産合計	2,324,639	2,280,121
無形固定資産	6,253	5,588
投資その他の資産		
繰延税金資産	39,210	60,022
その他	513,085	553,676
貸倒引当金	△1,050	△1,137
投資その他の資産合計	551,245	612,561
固定資産合計	2,882,138	2,898,271
資産合計	6,665,933	6,665,550

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年10月31日)	当第1四半期会計期間 (2020年1月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	275,057	270,400
短期借入金	660,000	660,000
未払法人税等	74,658	55,600
賞与引当金	33,812	94,471
その他	305,260	307,921
流動負債合計	1,348,788	1,388,393
固定負債		
退職給付引当金	193,438	191,882
役員退職慰労引当金	4,386	4,386
資産除去債務	10,173	10,173
その他	36,764	36,131
固定負債合計	244,762	242,574
負債合計	1,593,551	1,630,968
純資産の部		
株主資本		
資本金	601,800	601,800
資本剰余金	395,973	395,973
利益剰余金	4,513,238	4,481,153
自己株式	△496,144	△496,144
株主資本合計	5,014,867	4,982,783
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	57,514	51,798
評価・換算差額等合計	57,514	51,798
純資産合計	5,072,382	5,034,582
負債純資産合計	6,665,933	6,665,550

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自2018年11月1日 至2019年1月31日)	当第1四半期累計期間 (自2019年11月1日 至2020年1月31日)
売上高	1,444,977	1,457,757
売上原価	1,170,100	1,187,836
売上総利益	274,876	269,920
販売費及び一般管理費	161,397	176,548
営業利益	113,479	93,371
営業外収益		
受取利息	302	245
受取配当金	1,830	2,125
受取賃貸料	3,395	3,383
その他	804	1,043
営業外収益合計	6,333	6,796
営業外費用		
支払利息	858	692
売上割引	674	623
投資有価証券評価損	10	2,884
その他	246	153
営業外費用合計	1,789	4,353
経常利益	118,023	95,815
特別利益		
固定資産売却益	1,665	—
補助金収入	—	300
受取保険金	—	4,416
特別利益合計	1,665	4,716
特別損失		
固定資産除却損	160	0
保険解約損	—	573
特別損失合計	160	573
税引前四半期純利益	119,529	99,958
法人税、住民税及び事業税	50,208	48,899
法人税等調整額	△14,877	△18,378
法人税等合計	35,331	30,520
四半期純利益	84,197	69,437

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第1四半期累計期間(自 2019年11月1日 至 2020年1月31日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期累計期間(自 2019年11月1日 至 2020年1月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当第1四半期累計期間(自 2019年11月1日 至 2020年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 損益計算書 計上額 (注3)
	フィルター 部門	燃焼機器 部門	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	1,363,241	94,374	1,457,616	140	1,457,757	—	1,457,757
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,363,241	94,374	1,457,616	140	1,457,757	—	1,457,757
セグメント利益 又は損失(△)	162,663	938	163,601	△ 417	163,183	△69,811	93,371

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に総務部等管理部門の一般管理費等であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

以 上